

## Bridgens, Richard

### Sketches illustrative of the manners and costumes of France, Switzerland, and Italy.

London, Baldwin, Cradock and Joy, 1821. (文献番号7-3)

Hiler p.114 Colas 444 Lipperheide 572

ブリジェンズ著

図解 フランス、スイス、イタリアの風習と服装

序文2ページ、図版リスト2ページのあとに見開きで左側に図(色刷りアクアティント版)右側にその解説という形で続く。図版は標題紙を含めて50枚ある。標題には「フランス、スイス、イタリアの」となっているがほとんどがフランスとイタリアで占められている。序文には「最初60枚の図版から成る作品とする予定だったがスイスの部分だけ先にまとめて出したのでそこを大幅に除いて50枚にした」旨が書かれている。

内容はフランスとイタリア(ブローニュ、ディエップ、パリ、ローマ、トリノ等)の風習と服装を図で紹介したものである。主に一般庶民を対象とし、「モンスニの服装」や「トリノの服装」「ピサの服装」のようにその地域で見られる一般的な服装や「パリの花売り娘」「ヤギ飼」「代筆屋」など特定の仕事に見られる服装を描いたものもある。序文には「その時その場所を着装されたものにかなうものはない」と述べられており、「この仕事の偉大な所はその国の実例を伝えてくれること」だとも書かれている。これは各図版が背景にも風俗をおりこむように気を配っているらしい点にもうかがうことができる。他にはイタリアの身振りを紹介する図版が3枚、「さまざまなヘッドドレス」と題し、かぶりものを集めた6枚の図版もある。最終ページは「ローマの葬列」の折り込み図である。

Hiler の書誌によると異版として“Illustration of manners and costumes of France, Switzerland and Italy” (London, J. Donding 1835) があるという。

図は「巡礼者」麻布の服で身を包み、大きな帽子はしばしば背の方にかけてある。形見をぶら下げた十字架を運び、肩には防水布(オイルスキン)をまとい、そこには貝や十字架が留めてある。ローレットに行く途中の道はでこぼこで素足で歩くことも多い。背景はイタリアの本街道でよく見かける十字架である。(尾崎)

